

唐詩三百首

中村重義

押して下さいと言われ長男の我が押す母の遺体を火となす鉤ボタン

ほわほわと笑まう母なり苦しみて逝きしが夢にほわほわと顛たつ

ウイリアム・テルの如くに引き絞る歳月の矢の眩しき光

ひそやかに豊かに樂は奏でられ月は隈なく現し世照らす

桂林にて求めし「唐詩三百首」華語解るかと店員問えり

心臓にステント五本入れし妻安らかに眠るソファの上に

呆けかけた妻が「どなた？」と問う日まで愛していたい愛してゆこう

七草を刻む手許の香り立ち百歳までも生きてみようか